

## I 一般事項

### 1. 会議等の開催

#### (1) 総会

##### ①平成 11 年度通常総会（平成 11 年 5 月 27 日 国際健康開発センター）

- ・平成 10 年度事業報告及び収支決算
- ・平成 11 年度会費並びに平成 11 年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員の変更

##### ②平成 11 年度臨時総会（平成 12 年 2 月 22 日 国際健康開発センター）

- ・定款の一部変更の承認
- ・閉鎖性海域環境保全国際基金の処理
- ・平成 12 年度会費の決定

#### (2) 理事会

##### ①第 61 回理事会（平成 11 年 5 月 18 日 国際健康開発センター）

- ・高松市（中核市）の加入の承認
- ・専門委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

##### ②第 62 回理事会（平成 12 年 1 月 18 日 協会）

- ・職員給与規則の一部改正
- ・定款の一部変更
- ・閉鎖性海域環境保全国際基金の処理
- ・平成 12 年度以降の会費
- ・臨時総会の開催決議

##### ③第 63 回理事会（平成 12 年 3 月 24 日 神戸市教育会館）

- ・平成 11 年度収支予算の補正
- ・平成 11 年度事業実施状況
- ・平成 12 年度事業計画案及び収支予算案
- ・平成 12 年度中核市新規加入予定

#### (3) 専門委員会等

##### ①企画委員会

##### ア 第 56 回企画委員会（平成 11 年 5 月 18 日 国際健康開発センター）

- ・平成 11 年度事業計画（案）の進め方について
- ・瀬戸内海環境保全月間について
- ・平成 12 年度以降の会費の検討について

- イ 第 57 回企画委員会（平成 11 年 7 月 9 日 国際健康開発センター）
  - ・平成 12 年度以降の会費の検討について
- ウ 第 58 回企画委員会（平成 11 年 11 月 18 日 協会）
  - ・協会会費のあり方について
  - ・国際エメックスセンターの財団化及びそれに伴う協会の定款変更について
- エ 第 59 回企画委員会（平成 11 年 12 月 9 日 国際健康開発センター）
  - ・協会会費の見直しについて
- オ 第 60 回企画委員会（平成 12 年 2 月 29 日 協会）
  - ・平成 11 年度事業実施状況について
  - ・平成 12 年度事業計画（案）について

## ②編集委員会

- ア 平成 11 年度編集委員会（平成 11 年 7 月 13 日 協会）
  - ・協会総合誌「瀬戸内海」第 19 号及び第 20 号の編集について
- イ 平成 11 年度編集委員会（平成 12 年 1 月 5 日 協会）
  - ・協会総合誌「瀬戸内海」第 21 号及び第 22 号の編集について

## ③賛助会員事業部会

- ア 第 1 回賛助会員事業部会（平成 11 年 7 月 5 日 協会）
  - ・平成 11 年度事業部会事業計画の検討

- (4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（平成 12 年 3 月 16 日 国際健康開発センター）
  - ・平成 11 年度事業実施状況について
  - ・平成 12 年度事業計画（案）について

## 2. 専門委員の委嘱等

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

### (1) 企画委員の委託

#### ①企画委員氏名

- 吉 田 誠 宏 大阪府環境農林水産部環境指導室長
- 春 風 敏 之 兵庫県生活文化部環境局水質課長
- 岡佐古 義 高 広島県県民生活部環境政策課長
- 大 森 利 春 香川県生活環境部環境局環境保全課長
- 野 上 文 史 大分県生活環境部参事兼環境管理課長
- 中 尾 典 隆 神戸市環境局環境保全部水質保全担当課長
- 南 弘 之 姫路市環境局生活環境部環境保全課長
- 金 子 信 義 山口県漁業協同組合連合会専務理事
- 二 宮 英 二 愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
- 薄 眞砂子 (社)大阪エイボランターネットワーク 事務局長
- 平 尾 忠 紀 (財)広島県環境保健協会事務局長

#### ②委嘱年月日

平成 11 年 6 月 1 日

(2) 調査委員の委嘱

① 調査委員氏名

小 川 広 勲 大阪府公害監視センター所長  
川 村 隆 兵庫県立公害研究所長  
阿 部 富 弥 和歌山県衛生公害研究センター所長  
森 忠 繁 岡山県環境保健センター所長  
坂 本 征 則 広島県保健環境センター所長  
宮 村 恵 宣 山口県環境保健研究センター所長  
水 野 豊 徳島県保健環境センター所長  
増 井 武 彦 香川県環境研究センター所長  
井 上 博 雄 愛媛県立衛生環境研究所長  
加 藤 元 博 福岡県保健環境研究所長  
牧 野 芳 大 大分県衛生環境研究センター所長

② 委嘱年月日

平成 11 年 6 月 1 日

(3) 編集委員の委嘱

① 編集委員氏名

藤 井 正 美 神戸学院大学薬学部教授  
久 野 武 関西学院大学総合政策学部教授  
山 崎 卓 三 環境庁水質保全局瀬戸内海環境保全室室長補佐  
西 田 正 憲 環境庁京都御苑管理事務所庭園科長  
宇仁菅 伸 介 大阪湾広域臨海環境整備センター参事  
春 風 敏 之 兵庫県生活文化部環境局水質課長  
古 城 方 和 兵庫県立公害研究所第 2 研究部長  
丹 下 勝 義 兵庫県立水産試験場長  
松 村 真 作 岡山県水産試験場場長  
中 村 孝 孝 (財)広島県環境保健協会環境科学センター部長  
鷲 尾 圭 司 林崎漁業協同組合企画研究室長  
井 上 祐 一 関西電力株式会社立地環境本部環境技術グループ課長  
(野 村 真 関西電力株式会社立地環境本部環境技術グループ課長)  
北 條 貞 宗 株式会社クボタ環境管理部理事  
北 村 弘 行 元(社)瀬戸内海環境保全協会参与

② 委嘱年月日

平成 11 年 6 月 1 日

### 3. 事務局職員 (12.3.1 現在)

#### (1) (社)瀬戸内海環境保全協会職員

常務理事	寺畑建雄	(兵庫県からの出向)
顧問	櫻井正昭	((財)日本環境協会専務理事)
事務局長兼業務課長	福智 学	(兵庫県からの出向)
参事兼総務課長	堀毛 晋	
主任	中井純子	
事務職員	守安雅代	

#### (2) 国際エメックスセンター事務従事

事務局長	菊井順一	(兵庫県からの出向)
次 長	稲継正彦	(兵庫県からの出向)
主 査	酒井康裕	(兵庫県からの出向)

## II 事業活動

### 1. 普及・広報活動

#### (1) 平成 11 年度 (第 27 回) 瀬戸内海環境保全月間事業の展開 (11.6.1 ~6.30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対し、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、統一テーマに基づいて広く公募し作成したポスターの掲示、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成 11 年度瀬戸内海環境保全月間ポスター一般公募最優秀作品  
兵庫県加古川市 濱崎航貴君 (5 才) の作品

#### (2) 平成 12 年度 (第 28 回) 瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募 (12.1.20~3.8)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対し、広域的な瀬戸内海環境保全への参加を促すため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、環境庁と共催で一般公募を行った。

#### (3) 瀬戸内海環境保全普及活動事業 (昭和 51 年度~) (環境庁より受託)

瀬戸内海の環境保全思想の普及、意識の高揚を図るため、各地域における環境保全に関する組織活動の指導者等の研修を行うとともに「体験的な環境学習」の積極的な取り組みをした。

##### ①自然観察会等体験的学習事業の実施

海辺 (水辺) の教室、海辺の生き物探検隊等の実施

##### ②人材育成事業の実施

瀬戸内海環境保全指導者育成セミナー

日 時：平成 12 年 2 月 2 日

場 所：KKR ホテル大阪

テーマ：瀬戸内海の環境保全—Act Locally の手引き—

講 師：大阪府公害監視センター次長 岩崎佐太郎

(財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長 薦田直紀  
貝塚市立自然遊学館嘱託職員 白木江都子

③瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

日 時：平成 11 年 8 月 9 日～11 日

場 所：香川県坂出市大屋富町 国民休暇村五色台

参加人数：19 名

講 師：環境庁瀬戸内海環境保全室担当官

香川大学名誉教授 岡市友利

九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

香川大学農学部教授 門谷 茂

国際日本文化研究センター教授 白幡洋三郎

貝塚市立自然遊学館嘱託職員 白木江都子 他

(4) 瀬戸内海環境保全市民講座（テーマ：環境家計簿によるくらしの診断）

・第 1 回市民講座

日時：平成 11 年 6 月 29 日（火）

場所：姫路市

講師：鳥取大学工学部助教授 城戸由能

参加人数：約 80 名

・第 2 回市民講座

日時：平成 11 年 11 月 22 日（月）

場所：福山市

講師：和歌山大学システム工学部助教授 吉田 登

参加人数：約 100 名

・第 3 回市民講座

日時：平成 12 年 3 月 11 日（土）

場所：高松市

講師：京都大学防災研究所水資源研究センター助教授 城戸由能

参加人数：約 100 名

(5) 平成 11 年度瀬戸内海漁場環境保全に関する漁業団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海漁場環境保全対策連絡会／愛媛県漁業協同組合連合会／  
(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成 11 年 10 月 26 日（火）

場所：西条市

講演：演題 瀬戸内海の生物生産のしくみとその長期的変化

講師 愛媛大学沿岸環境科学研究センター長 武岡英隆

視察：アサヒビール（株）四国工場

参加人数：約 30 名

(6) 平成 11 年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／岡山県地区衛生組織連合会／  
(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成 11 年 11 月 24 日（水）～25 日（木）

場所：岡山市

講演：演題 地域住民の参加によるゼロ・エミッション社会をめざして

講師 岡山商科大学商学部教授 岡本輝代志

体験発表：大阪エフボランタリーネットワーク高槻支部等 8 団体

情報提供：瀬戸内海における新たな環境保全・創造施策のあり方について

参加人数：約 130 名

(7) 環境保全活動テキストの発行

瀬戸内海研究会が環境事業団地球環境基金の助成を受け編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたちー森～川～海からひと・暮らし・いきものを考えよう」を沿岸域の環境保全活動に資するため協会で印刷、発行した。

(8) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」を会員が実施するイベント等の展示・活用する目的で貸し出しを行った。

(9) 環境イベントへの参加

環境保全の普及・広報活動の一環として他団体が主催する環境イベントに参加し、パネル展示、資料配付、子どもゲームなどを実施した。

- ・ふれあいの祭典「さわやか環境まつり」（ひょうごエコ・フェスティバル' 9 9 11.10.23～11.10.24 主催：ふれあいの祭典実行委員会他 兵庫県立明石公園（明石市）

(10) 特別講演会の開催

通常総会の開催に合わせ、特別講演会を開催した。

日時：平成 11 年 5 月 27 日

場所：ひょうご国際プラザ

講演：演題 瀬戸内海ー 21 世紀に引き継ぐためにー

講師 中原中也記念館館長（瀬戸内海環境保全審議会委員）福田百合子

(11) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成 11 年度瀬戸内海環境保全月間行事(平成 11 年 6 月 1 日～30 日)への積極的参加

- ・ポスター一般公募への協力、参加
- ・月間ポスター等の掲出による普及啓発活動の実施

②総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

③瀬戸内海文化シリーズ「瀬戸内海の文化と環境」の配布

④平成 11 年度賛助会員研修会の開催（2 回）

ア テーマ：資源循環型社会に向けての取り組み

主催：瀬戸内海環境保全協会／山口県瀬戸内海環境保全協会

日時：平成 11 年 12 月 1 日（水）

場所：ホテルサンルート徳山

内容：第一部（施設見学）

セメント工場における廃棄物再資源化設備の見学

（株）トクヤマ 徳山製造所南陽工場

第二部（講演）

テーマ：資源循環型社会の構築に向けて

講師：山口大学工学部教授 浮田正夫

イ テーマ：瀬戸内海の環境保全—海からの発信—

主催：瀬戸内海環境保全協会／兵庫県瀬戸内海環境保全連絡会

日時：平成 12 年 3 月 15 日（水）

場所：舞子ビラ

内容：第一部（講演）

テーマ：瀬戸内海の環境保全—海からの発信—

講師：林崎漁業協同組合企画研究室長 鷲尾圭司

第二部（施設見学）

人と自然のコミュニケーション ジャパンフローラ 2000

淡路花博の会場

⑤地球温暖化防止月間ポスターの配布

⑥平成 12 年度瀬戸内海環境保全月間ポスター一般公募実施要領の配布

(12) 各種環境保全事業への協力

①大阪湾クリーン作戦への協力

②環境イベントに対する後援

- ・陸域起因海洋汚染防止推進シンポジウム（11.12.4 主催：(社)自然資源保全協会（東京都））等

2. 指導・助成

中核市、漁業団体、衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費の一部を助成。

3. 情報収集と提供

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワーク（「せとうちネット」）の開設・管理、運営

①事業の目的

瀬戸内海は 13 府県にまたがり、生活、生産、交通、憩いの場として多岐にわたる利用がなされているが、我が国最大の閉鎖性海域として、一つの生態系という観点から、一体的かつ総合的に保全されていく必要がある。このためには、現在、瀬戸内海沿岸の各種機関において実施されている水質、生物、景観、土木等の多様な分野の研究成果や情報を集約し、総合化することが必要である。

このような観点から、各分野の既往の研究成果をはじめ、瀬戸内海の環境データ、社会経済データ等の各種情報のデータベース化及びインターネット等を活用した情報の提供等を目的とする「瀬戸内海研究・環境等情報ネットワーク（「せとうちネット」）」を構築し、開設した。

②「せとうちネット管理運営委員会」の設置

瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークを常時的確に管理、運営していくため管理運営委員会（委員長／柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）を協会に設置した。

・第1回委員会 11.9.30

(2) 協会インターネットホームページの公開

自然環境が美しく持続可能な瀬戸内海を目指し、ホームページを通じて当協会の紹介を行うとともに瀬戸内海の環境情報の発信を行った。

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全－平成11年度版－」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全－平成11年度版－」を発行配布

・瀬戸内海の概況／産業の現況／埋立ての現況／水質・底質の現況／赤潮の発生状況／油による海洋汚染の発生状況／瀬戸内海の環境保全対策 他

(4) 総合誌「瀬戸内海」の発行

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌として「瀬戸内海」を年4回発行し、配布した。

・平成11年6月「瀬戸内海」18号発行  
・平成11年9月「瀬戸内海」19号発行  
・平成12年1月「瀬戸内海」20号発行  
・平成12年3月「瀬戸内海」21号発行

(5) 「新・瀬戸内海文化シリーズ」の頒布

協会20周年記念事業の一環として発行した「新・瀬戸内海文化シリーズ1－瀬戸内海の自然と環境」（平成9年度）及び「新・瀬戸内海文化シリーズ2－瀬戸内海の文化と環境」（平成10年度）の頒布に努めた。

・瀬戸内海の自然と環境 監修：合田健 編著：柳 哲雄  
・瀬戸内海の文化と環境 監修：合田健 編著：白幡 洋三郎

#### 4. 調査研究

(1) 瀬戸内海沿岸域環境保全・創造計画策定調査(平成10年度～) (環境庁より受託)

自治体、事業者、地域住民の各主体の連携と参加のもと、瀬戸内海の残された自然環境を保全し、また、良好な環境を回復するための取り組みを推進するために、沿岸府県における瀬戸内海沿岸域の環境保全・創造計画づくりを支援する計画策定マニュアルの作成に関する検討を行った。

①検討会：平成11年度瀬戸内海沿岸域環境保全・創造計画検討委員会

(委員長／楠田哲也九州大学教授)

②開 催：第1回 11.9.6、第2回 12.3.4、第3回 12.3.30

(2) 瀬戸内海の生物資源の持続性評価システムに関する研究（新 平成 11 年度～）

(環境庁より受託)

瀬戸内海における生物資源の保全と持続的利用を図るため、その評価指標及び特性を明らかにし、かつ、判定基準を定量化し、持続性評価体系を構築するための調査・研究を行った。

①検討会：瀬戸内海の生物資源の持続性評価システムに関する研究検討委員会

(委員長／松田 治広島大学教授)

②開 催：第1回 11.12.27、第2回 12.3.25

(3) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワーク情報整備業務（新）（環境庁より受託）

平成 11 年度から開設した瀬戸内海の環境データ、社会経済データ等の各種情報をインターネットを活用して提供する「瀬戸内海研究・環境等情報ネットワーク」（せとうちネット）について、藻場、干潟等のデータの追加・更新・加工等を行い、システムの充実を図った。

(4) 平成 11 年度世界閉鎖性海域環境保全会議資料（CD-ROM）作成業務（新）

(環境庁より受託)

第 4 回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）において瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域の環境保全対策の先進的な事例を紹介するための資料として CD-ROM を作成した。

(5) 平成 11 年度原油及び油処理剤の環境影響に関する調査（新）（環境庁より受託）

ナホトカ号重油流出事故では、事故発生当初から、環境への影響を把握するため詳細な分析が実施されてきたが、油及び油処理剤のなかに含まれる有害物質の種類、毒性等に関する情報が必ずしも十分でなかった。このため、油事故時に環境影響調査を円滑に行えるための知見収集が必要であることが認識され、原油及び油処理剤の主要有害成分の危険濃度データ、簡易測定手法に関する知見の整理、環境影響調査実施のための組織・協力体制の検討等に基づいてマニュアルの作成を行った。

①検討会：平成 11 年度原油及び油処理剤の環境影響に関する調査検討会

(座長／岡田光正広島大学教授)

②開 催：第1回 12.1.19、第2回 12.2.29、第3回 12.3.21

(6) 瀬戸内海沿岸域環境保全創造計画検討調査(平成 10 年度～)（兵庫県より受託）

兵庫県の瀬戸内海沿岸域の残された自然環境の保全を図るとともに、環境回復・創出等の施策を総合的・計画的に推進するための「瀬戸内海沿岸域環境保全創造方策（仮称）」の策定に向け、沿岸域の環境情報、沿岸域住民等の意向を把握するなど詳細な調査検討を行った。（一部の調査検討に当たっては、瀬戸内海研究会議の協力を得た。）

(7) 瀬戸内海対策発見情報プロジェクト実践事業（新 平成 11 年度～）

(環境事業団より助成)

残された瀬戸内海の自然環境の保全を図るとともに失われた瀬戸内海の環境を取り戻すことを目的に沿岸域の住民の自主的取り組みを推進するため、瀬戸内海の環境の指標生物として位置づけられている「スナメリ」について発見情報プロジェクト(①パンフレットの作成配布 ②出現状況の航空機調査 ③インターネットによる発見情報の発信)を展開した。

## 5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営・推進を支援し、協力した。

### (1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の円滑な事務運営と会員との連絡調整等を行った。

### (2) 瀬戸内海研究フォーラム in えひめの開催に対する支援・協力

(11.8.26～27 メルパルク松山(松山市))

瀬戸内海研究会議が主催した「瀬戸内海研究フォーラム in えひめ/瀬戸内海環境の長期変動と将来」の開催に対し、支援・協力を行った。

### (3) 瀬戸内海研究会議ワークショップの開催に対する支援・協力

(12.2.26 神戸山手大学(神戸市))

瀬戸内海研究会議が主催したワークショップ「自然環境を愛しみ まもる心を育てるために—フランスと日本 沿岸域環境の保護と管理—」の開催に対し、支援・協力を行った。

## 6. 国際的な活動

### (1) 閉鎖性海域の環境保全に関する国際的な活動の支援

平成11年11月にトルコ国アンタルヤ市で開催された第4回世界閉鎖性海域環境保全会議に協力した。

### (2) 閉鎖性海域環境保全国際基金の運用

閉鎖性海域環境保全国際基金管理規則に基づき、安全かつ有利な方法で資金を運用し、国際エメックスセンターに対して活動交付金を交付した。

## 7. その他関連事業

### (1) 国に対する要望(11.7.21 環境庁)

会員の意見を踏まえ、次の事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮について要望した。

- ①瀬戸内海環境保全のための普及活動事業及び参加型環境保全活動事業の推進
- ②瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
- ③瀬戸内海の沿岸域の環境保全・創造に関する調査

- ④瀬戸内海の生物資源の持続性評価に関する調査
- ⑤瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究
- ⑥瀬戸内海の自然環境保全に関する調査研究
- ⑦瀬戸内海の化学物質等による環境影響に関する調査研究
- ⑧瀬戸内海における大規模油流出事故に備えた環境対応マニュアルの策定
- ⑨各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
- ⑩閉鎖性海域の環境保全に関する国際的活動
- ⑪瀬戸内海研究会議の調査・研究活動の拡充・強化

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との連携

協会では、「瀬戸内海環境保全知事・市長会議」と連絡を密にし、事業実施にあたった。

- ・瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募、作成
- ・瀬戸内海環境シンポジウム（11.8.30 尾道市 主催：瀬戸内海環境保全知事・市長会議）

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。

（平成12年3月末現在 152社、161口）

(4) 協会パンフレットの配布

一般の方々に対して協会の設立目的、組織、事業活動をよりわかりやすく広報することを目的に協会のパンフレットを配布した。